

令和3年度を振り返って

今年も桜が満開となり、新年度がはじまりました。コロナとの戦いが始まって2年が経過し、今年度はどんな一年になるのだからと案じながら、令和3年度を振り返っていきます。

令和3年度は2つの重点目標をあげて取り組んできました。

1つ目は、「第2種感染症指定医療機関としての役割を果たす」としました。コロナとの戦いも2年目に入り、この体制をどう維持していくかに舵をきることになりました。前年度(第3波まで)は、波のピーク時に5階病棟を閉鎖し6階病棟(コロナ病棟)の看護体制を強化してきました。しかし、第4波ではその波の大きさから、5階病棟もコロナ病棟へ再編し、最大64床まで受け入れができるようにしました。このとき、5階病棟のコロナ病棟への移行は、見事なほどにスムーズに行うことができました。この要因として、前年度に、コロナ体制強化のため看護体制の再編を繰り返し、看護科の皆さんに多大なる負担をかけてきましたが、このことが功を奏した証、ピンチをチャンスに変えることができたと考えています。



現在は「収束」という2文字が見えてこない第6波が続いています。コロナワクチンが始まったことや、変異株(オミクロン株)の出現などにより、波の様子も変化してきています。第6波では、従来から行ってきたコロナ陽性者外来や発熱外来の他、院外にテントを張り、濃厚接触者(専用)外来も行いました。各部署の師長や再任用の皆さんにも協力していただきながら、テント運営を行いました。すべての職員が一丸となって取り組むことができ、感謝してもしきれない思いでおります。本当に素晴らしい皆さんと一緒に戦っていけることを誇りに思っています。ありがとうございます。

また、今年度は安芸市民病院や通信病院、機構内のリハビリテーション病院から看護師の応援をいただきました。感謝しかありません。病院内だけで戦っているのではない、地域全体で戦っている、地域全体に支えられていると強く実感し、今後の戦い続けるための活力となっています。

2つ目の目標は、「ホスピタリティマインドのもと、ひとり一人の価値観を尊重した質の高い看護を提供する」としました。看護とはサービス業と言われるとおり、結果も大事ですが、それ以上にプロセスが大切です。コロナ禍において煩雑になりやすい環境ですが、常に「おもてなしの心」をスローガンに取り組みました。まず、気持ちの良いあいさつの徹底、相手(患者さんやご家族)の変化を感じとることができるよう対人感受性を高める、相手の立場で考え行動する、そして、相手の喜び=仕事のやりがいに発展させることができたなら最高ですよ。

終わりが見えないコロナとの戦いは、想像以上に過酷なものです。しかし、出口は必ずあります。今後は、After コロナをどう生き抜いていくのか、当院のあり方を模索していきながら、看護科一丸となって頑張っていきたいと思えます。

広島市立舟入市民病院
総看護師長 森 麻美